

CSWフレームを用いた 事例検討方法

(日本社会事業大学 社会福祉学部 菱沼幹男准教授 講義より抜粋)



CSWフレーム

家族の力(意欲・生活力) 思い・有する力/+高まる方策	本人の力(意欲・生活力) 思い・有する力/+高まる方策	住民の力(意識・活動) 思い・有する力/+高まる方策
社会資源につなぐ 公的・民間/手段的・情緒的	生活問題・課題 主訴/支援者の見立て	社会資源をつくる 公的・民間/手段的・情緒的
現在つながっている 公的・民間/手段的・情緒的	専門職の力(知識・体制) 有する力/高まる方策	自由発想

CSWフレーム活用のポイント

- 付箋を使用して、アイデアを出し合っていき各フレームを埋めていく
- 実現の可能性や優先順位は実際の支援チームで検討する事とし、事例検討では事例提供者の引き出しを増やす事を目的とする
- アイデア出しのシートとして位置づけ、出されたアイデアは否定しない
- 最初は生活問題・課題を抽出する
- 同じ方策を複数の枠に記載しても良い
- フレームにとらわれない自由発想も大事

各項目について

【生活問題・課題】

このままでは生活に支障が生じるような改善が必要な状態が生活課題であり、その問題解決に向けた取り組みが課題。

（主訴/支援者の見立て） ご本人やご家族が訴えているものが主訴。訴えがなくても必要があると思われるものが見立て。

各項目について

【本人や家族の力】

意欲 前向きに生きていこうとする思い。

生活力 日常生活で必要な生活技術。

【地域の力】

意識 本人や家族の生活問題への理解・関心。また、地域活動に対する理解・関心。

活動 住民が主体となって行っている、

各項目について

【専門職の力】

知識 本人や家族の生活問題や対応方法(活用できる制度、支援技術)に関する知識。

体制 本人や家族、地域に対する直接的な支援ではなく、より良い支援を行うための仕組み。

各項目について

【社会資源につなぐ・つくる】

つなぐ・つくる 既存の制度や社会資源を活用することがつなぐ。こんな社会資源があったらより良い支援ができると考えられるものがつくる。

手段的・情緒的 家事、介護、育児等の直接的な支援が手段的支援。話を聞くなどの精神的な支援が情緒的支援。

各項目について

【自由発想】

思いついたアイデアがどの枠に落とせるか分からない場合この枠に置く。